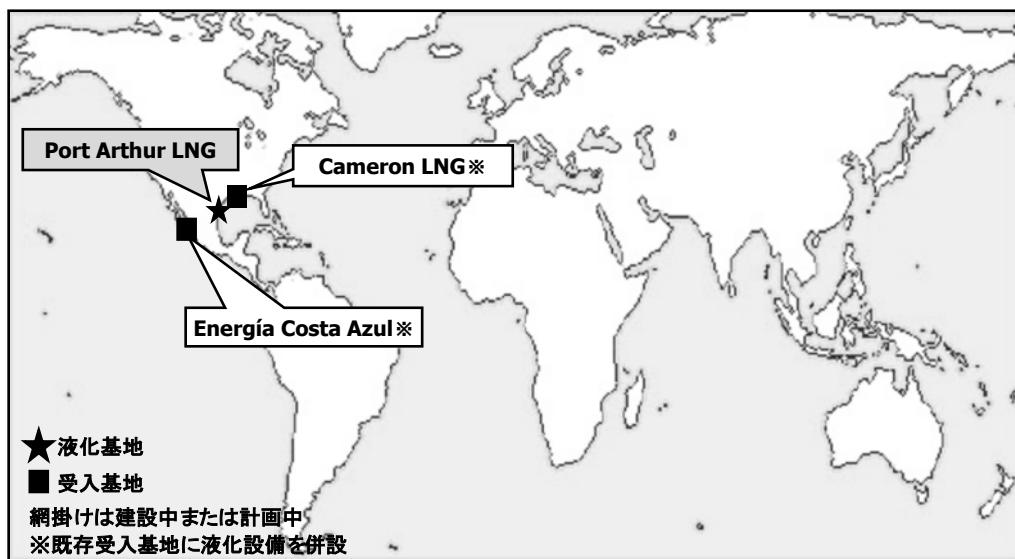


## 8. Sempra Energy

### (1) 企業概要

Sempra Energy は北米を中心に電力・ガスのエネルギーインフラストラクチャーを運営する企業である。1998年にPacific Enterprises社とEnova Corporationの合併で設立した。2008年Costa AzulでLNG受入基地の運用を開始、2009年にはCameronの受入基地も稼働したが、2013年、シェール革命によってCameronの受入基地に液化基地を併設することを決定した。世界で3500万件以上の電力・ガス顧客を持つ。

Sempra Energy の LNG 液化・受入基地図



### (2) LNG 関連

Sempra Energy は米国ルイジアナ州にて Cameron LNG を運営している。2019年8月にTrain 1、2020年3月にはTrain 2、同年8月にはTrain 3が商業運転を開始し、当初計画した3系列すべてが稼働した。合計で年間1200万トンのLNG生産容量を持ち、三菱商事、三井物産、Totalと液化加工契約を締結している。

また、Cameron LNGの拡大 (Train 4、5)、米国テキサス州ではPort Arthur LNG、メキシコ西海岸ではEnergia Costa Azul LNGを計画している。Port Arthur LNGでは、2018年12月にPGNiGと年間200万トンの売買契約に合意、2019年5月にはSaudi Aramcoと年間500万トンのLNG引き取りとPort Arthur LNG Phase 1の25%株式取得に関する基本合意に到っており、2020年中のFIDが期待されたが、COVID-19や原油価格競争による市場の急激な変化によりスケジュールを延期、2021年中のFIDを目指している。Energia Costa Azul LNGは既設の受入基地に液化基地を併設し、米国からパイプラインで輸入した天然ガスを液化・輸出する。メキシコ湾岸でのプロジェクトに比べアジア市場に近く、パナマ運河の

#### IV. 主要企業別 LNG 事業動向

制約も受けない。2020 年第 2 四半期報告では、Total と年間 170 万トン、三井物産と年間 80 万トン、それぞれ 20 年間の売買契約を締結したことを発表している。2020 年 2 月には TechnipFMC と Phase 1 建設に関する EPC 契約を締結している。その時点では、2020 年第 2 四半期での FID を予定していたが、メキシコ政府の輸出承認が得られておらず、承認待ちとなっている。

#### Sempra Energy の LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
アメリカ	Cameron LNG (Train 1) 既存受入基地に併設)	1,200	2019年	Cameron LNG Sempra 50.2%, Total 16.6%, JLI(三菱商事70%, 日本郵船30%) 16.6%, 三井物産 16.6%)	欧州・アジア
	(Train 2)		2020年		
	(Train 3)		2020年		
	(Train 4)	800	計画中		
	(Train 5)				
	Port Arthur LNG, Train 1, 2	1,350	2025年 (計画中)		
Train 3, 4	1,350	計画中			
メキシコ	Energia Costa Azul 既存受入基地に併設予定)	250	2024年 (計画中)	Sempra LNG & Midstream, Infraestructura Energetica Nova	アジア・欧州
	Phase 2	950	計画中		

#### Sempra Energy の LNG 契約

輸入国	買主	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
日本	三井物産	Costa Azul LNG 商業運転開始から20年	80	N.A.
N.A.	Total	Costa Azul LNG 商業運転開始から20年	170	N.A.

プロジェクト	事業者	液化加工契約者	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)
Cameron LNG (Train1-3)	Cameron LNG (Sempra 50.2%, Total 16.6%, JLI(三菱商事70%, 日本郵船30%) 16.6%, 三井物産 16.6%)	三菱商事	2019~2038 (20年)	400
		三井物産	2019~2038 (20年)	400
		Total	2019~2038 (20年)	400

#### (3) 今後の戦略

プライオリティーの高い北米地域でのビジネスに注力するため、非中核事業の売却を進めている。2020 年はペルーとチリで持っていたエネルギー資産を売却した。ビジネスの強靱性と競争力を向上させ、北米トップのエネルギーインフラ企業を目指しており、LNG については年間 4500 万トンの輸出能力を持つことを目標に掲げている。拡大するエネルギー需要に応え、低炭素なエネルギーの選択肢を供給し市場の再形成を助けるインフラ投資を行うとしている。